第１回 栗東市観光振興戦略会議　会議概要

■日時：令和７年６月９日（月）　午後３時 00 分～午後４時 30 分
■場所：栗東市危機管理センター　２階 防災研修室
■出席：《委員》
上田 雄三郎委員（会長)、田中 義信委員（副会長)、山本 高之委員、
清水 厚芳委員、杉田 健一委員、鶴田 泰伸委員、濱田 康之委員、高田 麻里委員
《委託事業者》
㈱しがぎん経済文化センター
《事務局》
環境経済部長、商工観光労政課長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：《委員》
なし

１．開会
（環境経済部長）

２．市民憲章唱和

３．あいさつ
（栗東市長あいさつ　省略）

（事務局）
・本会議内容は原則公開。
・本日の傍聴者は０名。

４．委員の移植および委員の紹介について（資料１・２）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

５．会長、副会長の選任について（資料３）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

６．栗東市観光振興戦略会議の公開にかかる取り扱いについて（資料３）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

７．報告事項

①第二期栗東市観光振興ビジョンからの方針変更と計画内容の拡充について
（報告資料１）

②第二期栗東市観光振興戦略の策定に向けた体制及びスケジュールについて
（報告資料２）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員　：「観光振興ビジョン」と「観光振興戦略」の違いについて。例えばそれぞれ２ページを見ると、ビジョンの位置づけなどは全く同じになっている。どのような違いを出しているのか。

事務局：「観光振興ビジョン」を完成させることが我々事務局のミッションであるが、冒頭の市長挨拶でも述べたように、庁内で「ビジョンがやや総花的で具体的に何をするのか明確になっていない」という指摘があった。それを受けて、「戦略」では「重点戦略」を位置づけることで、具体的にどのようなことに力を入れて取り組んでいくのかを記載した。この点については、この後の協議事項で改めて説明したい。一方、委員ご指摘のとおり、建て付け自体が前回のビジョンに引きずられている部分もあるため、その点は委員の皆さまからご意見をいただきながら調整していきたい。

委員　：つまり「ビジョン」が古くて「戦略」が新しいということでいいか。

事務局：そのとおりだ。

委員　：市の総合計画でビジョンについて書かれているが、今日の資料ではそれがわかるものが配布されていない。振興戦略より総合計画が上位計画なので、資料がないと今後の議論でもきちんとマッチングしているかどうかわからないと思う。総合計画ではどういうことが述べられているか説明をお願いしたい。

事務局：（追加で総合計画の観光に該当するページの資料を配布し、説明。資料を読み上げた部分は省略）
総合計画では、観光主義を活用した多様な企画運営や市民と来訪者の交流の機会を創出し地域文化と関連産業の活性化を図る、そして広域的な観光事業の展

開を図り情報発信に力を入れることで余計拡大を図っていくというような内容が記載されている。ここでは大きな方向性を記載しているので、「戦略」ではもう少し踏み込んだ内容をしっかり位置づけていきたいと考えている。
また、先ほどのスケジュールについての説明に補足したい。今回、非常にタイトなスケジュールで戦略を作っていかざるを得ないため、意見を言う機会があまりないのではないかというご指摘もあろうかと思う。ただ、事務局としては、来年度以降で戦略の「実行計画」を3カ年ローリングのような形で回しながら進行管理を進めたいと思っており、皆さまから随時いただく意見はその実行計画の中で反映することができると考えている。

委員　：今日提示いただいた案では、より戦略的にしっかりと進めていくということだが、「ビジョン」から「戦略」にすることでさらにやっていけるという考えであるなら、今後の進め方として、より具体的な内容や突っ込んだ議論が必ず必要になると思う。ビジョンを基に戦略を立てていくのであれば、今のスケジュールではかなり厳しい時間になるのではないか。成案までの期間を3カ月延長することもあり得るということだが、実際、事務局としての基本的な進め方についての思いがあれば聞かせてほしい。

事務局：後ほど詳しく説明申し上げるが、協議資料1「第二期栗東市観光振興戦略（案)」15 ページ以降が「ビジョン」から大幅に見直しをかけている部分になる。目指す姿、基本理念ならびに栗東市にとっての観光資源とはどういうものかということをしっかり位置づけて、その後、基本方針、基本戦略については「ビジョン」の内容を吸収しつつ、21 ページ以降で新たに4点の重点戦略を追加した。この案を軸にしながら進めていきたい。

委員　：スケジュールを変えてやるということなので、結果はしっかり出さなければいけないと思う。より深い議論と、市がどれだけ本気になれるか、真剣になって観光振興やるのだというアクションを一緒にやってもらえるかどうかというのがポイントだと思うので、ぜひともその点を考えながらよろしくお願いしたい。

会長　：「ビジョン」から「戦略」へということで、一つ前に出て、より具体的なものをということなので、次の項目である協議事項について皆さまからご意見をいただきたいと思う。

8．協議事項

第二期栗東市観光振興戦略（案）について（協議資料1）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

会長　：ポイントとしては、①「目指す姿」は従来の表現から基本的な方向性は変わらないものの、経済的効果および文化的効果について具体化したこと、②4章で重点的な施策を考えた中でのポジショニングの話、③5章の推進体制と各主体の役割の明確化を図ろうとした、という内容かと思う。まずは皆さんから自由にご意見をいただきたい。

委員　：戦略（案）9 ページのアンケート⑤訪問場所で、道の駅こんぜの里りっとうが56%で最も高く、次が栗東芸術文化会館さきらだった点にちょっと驚いた。栗東全体で見たときに、栗東芸術文化会館さきらが訪問（予定）場所の2番目なら、おそらく栗東駅から歩く人の流れになると思うので、駅からさきらに歩いて向かうここで上手に何かやるという観光の考え方があると思うが、戦略では書かれていない。例えば一つの案として、栗東芸術文化会館さきらの広場を芝生にしたら、草津ファーマーズマーケットのようなたくさんの人たちが集う場みたいにならないだろうか。市内の別の場所ではホースパークがあって馬がいて人が集って、駅前には栗東芸術文化会館さきらのパークで人が集う場みたいな、そういうことがあってもいいのではないかと感じた。

委員　：初回の会議なので最初に聞いておきたい。会議の方向性としては、この「戦略」ありきで肉付けをしていくということなのか、そもそもこんな内容は違うという視点から入ってもOKなのか。例えば「栗東八景」は昔からあって、盛り上げていこうと言っているが全然人は来ない。栗東市が「ここが観光名所だ」と言っているだけで、他府県の人がそこをターゲットにして来るかというと、まず引っかからない。市内の人だからこれを生かそうと思っているだけで、他府県民から見たときに伏見稲荷に行くレベルでここに来る人がどれだけいるのか。つまり、今あるものを生かそうとするのか、「もっとこんなことしていこう」という発想で意見を述べてもいいのか。

事務局：基本的には出た意見もいただきながら進めていきたいと考えている。たが、例えば栗東八景についてはやはり賛否あると思う。かなり愛着を持つ方もいれば、そうじゃないという意見もあると思われ、どちらか一方に偏れない部分もある。それぞれの意見をいただきながら進めていきたい。

委員　：もちろん地域の資源として保全することは重要で、そこを訪問する方はいると

思うが、これを売りにすることありきで進めていくのか、あるいは一度ここから離れようという発想でもいいのか。先ほどの意見のように、栗東芸術文化会館さきらの広場を芝生にして、「馬のまち」なら馬を走らせたらよいのではないかとか。条例や法律があるとは思うが…。子どもたちが乗馬体験できるような、栗東市として馬と触れ合える場所をもっと増やしていこうよと。京都で人力車が走っているように、旧中山道でもいいが、栗東に来たら馬車に乗れる、馬に引っ張ってもらえるとか。現実的に難しいこともあると思うが、どんな目線で意見を言えばいいのか、自由に言っていいものか。

事務局：そういう意味では何も縛られるものはなく、栗東八景じゃないとだめだということは決してない。「戦略」では、観光資源として5点ほど挙げたが、例として申し上げただけで、他にも追加していけたらいいのではないかと考えている。栗東市の観光資源を広義に捉えて、ご意見いただきながら増やしていけたらと思う。

委員　：了解した。ここをこう伸ばしていくというより、「こんなことを始めよう」ということもそろそろ必要なのかなという思いがあったので質問した次第だ。

委員　：先の二人と似たような意見だが、資料9ページのアンケート⑤訪問場所で、回答割合が高い11番目が観光案内所、21番目がホテル名になっている。これらは観光地なのか、このリストに入れるべきものなのかという点もあるが、この表の順位と栗東市が強みとしてPRしようとしているものとで相違があると感じる。また、道の駅なら物販がメインになるだろうという点を考えると、「栗東市の特産品は何か」と尋ねたとき、市民の8割ぐらいが口を揃えて言うような特産品が出てくるのか、市外の人だったら何割ぐらいかとか、それぐらい知名度がある特産品を今後もPRしていくのか、それとも新たに作っていこうという話なのか。施設についても同様で、「馬のまち栗東」は何年ぐらい前から言っているのかわからないが、トレセンで馬と触れ合うことはできないし、私どもの施設も常にオープンな場所ではない。もちろん、今ホースパークの話も進んでいると思うが、本当にゼロベースでの馬の活用については、実はできることはいろいろあるのではないかと思っている。法的な規制はあるが、そこも変えていこうというのが、この会議の役割だと思っているので、いろんなことをゼロから考えて言っていければと思う。

事務局：委員のお話のとおりで、新しいことを生み出していく会議でありたいと考えているので、ぜひ積極的にご意見いただけるとありがたい。

また、観光客のニーズ調査について補足したい。500 人を対象に Web と対面で調査を次実施したが、対面調査を実施したのは「田舎の元気や」「道の駅アグリの郷栗東」「道の駅こんぜの里りっとう」「栗東芸術文化会館さきら」の 4 カ所となっている。また、チラシの配布場所が「アートリッツホテル」「旧和中散本舗」「KONZE カモシカキャンピングヴィレッジ」等々10 カ所で、実際に調査した場所が調査結果に影響を与えている可能性がある。この点、補足説明しておきたい。

委員　：前年度までの会議でも、アグリの郷や田舎の元気やなどは商業施設であって、売上としては観光ではないのではないかという議論はかなり出た。私はアグリの郷の役員も務めているが、栗東の観光入込客数 100 万人のうちの 20 万人ぐらいがアグリの郷だと思う。これが本当に正確な指標になるのかどうかについては、アンケート調査結果を見たときにも議論になっていたので、あんまり参考にならないのではないかというのが正直な印象だ。その中で、これまでの会議では、行政がここまで細かく道筋をつける必要が本当にあるのかという議論もあった。本来は民間がある程度道筋をつけた中で行政がサポートに回るために、今までは「ビジョン」という形にしていたのを、今度はあえて「戦略」に変えて行政が具体的に旗を振り始めるとなると、いろんなメリット、デメリットがあるかと思う。その辺が明確にならないと、中身の議論はなかなか進まないのではないか。旗を振ったけど民間はついて来ないということもあるだろうし、行政にしかできないこともたくさんあると思うので、そのあたりをちょっと聞かせていただきたい。

事務局：ご指摘のとおりだと思う。今回、事務局としては、「戦略」26・27 ページの「各主体の役割」で、民間、行政、まちづくり団体等含めて、栗東市として観光産業を通じて地域経済を活性化させていきたいという点を大きな方向性として挙げている。そうした経済的な効果を期待しながら、市の役割としては戦略に基づく政策・施策の検討を行うということで、一つの例として、都市計画法を活用することで観光産業としての土地利用が図りやすくなるような施策を進めていきたいと考えている。ここに記載しているように、観光に関連する事業者の方はそれぞれの戦略に即して専門性を生かして観光事業に取り組んでいただくなど、あるいは観光に関連しない事業者の方もビジネスチャンスとして捉えて地域の活性化に寄与していただければと思う。このような形で役割分担をしていけたら、より良い方向に進んで行けるのではと考えて記載した。もちろん、行政が前に出ることがマイナス効果となるようなら本末転倒なので、ご意見いただきながらバランスを見ながら進めていく必要があると考えている。

委員　：戦略（案）1ページについて、これもいつも言っていることだが、どこの自治体に置き換えてもこの文章が使えてしまう。国や県が決めているからではなく、なぜ栗東が今観光に取り組んで、積極的に戦略を打っていかないといけないのかというのがここの趣旨にならないといけないと思うが、いつもこ数字の羅列になっている。おそらく 3700 億円ぐらいある市の GDP うちの 1 %の経済効果のためにすることなのか、あるいは、観光入込客数を増やして栗東の認知度、ブランド力を上げていくためなのか、明確になってないのではないかと思うがその点いかがだろうか。

事務局：ご指摘の点については、しっかりと引き継ぎを受けていなかった部分もある。そうした中で、今回の「戦略」に合わせて趣旨の文末の部分を修正したという経緯もあるので、ご指摘の点も踏まえてもう少し明確に示していきたい。

9．その他

・ご意見シートの提出について
・第 2 回戦略会議日程について…令和 7 年 7 月 31 日　13 時 30 分～15 時

10. 閉会

（田中副会長によるあいさつ　省略）

以上